『収穫までそのままに』（マタイの福音書 13:24-30, 36-43 節）2022.8.21.

＜はじめに＞ イエスがたとえ話の説明を示されたのは、種蒔く人のたとえ(18-23)と、麦と毒麦のたとえ(36-43)だけです。天の御国のたとえは、これ以外に 13 章に 6 つの短篇があり、18, 20, 22, 25 章にはより長いものがあります。イエスはたとえ話の読み解く力を育てようとされているようです。

Ⅰ　物語の振り返り

①麦と毒麦のたとえ(24-30)

主人は自分の畑にどんな種を蒔きましたか。なのに毒麦も現れたのはどうしてですか。その時、しもべたちは主人にどんな提案をしましたか。それに対して主人は何と答えましたか。なぜ主人は「収穫まで両方とも育つままにしておきなさい」(30)と言ったのでしょうか。

②たとえの説き明かし(36-43)

群衆が去ると、弟子たちはイエスに先のたとえの説明を求めました(36)。イエスはたとえの事象を逐一説明されていますが、漏れはありませんか。このたとえの焦点は終わりにあります。終わりの時にどんなことが起こると、イエスは語られていますか(40-43)。

③主人としもべ

このたとえには、いろんな対比があります。どの対比に関心がありますか。種を蒔いた時、異常が発覚した時、収穫の時は、時の流れを示しています。しもべたちが「どうして(注:どこから)」と思うこと、そこで彼らが対処提案したことに、主人は何と答えているでしょうか。

Ⅱ　質問と答え

①どうしているのか(27)

蒔かぬ種は生えません。毒麦が主人の蒔いた種に混ざっていたのでしょうか。そうではない、としもべも認めています。この世に悪い者の子らがいて、その根源である敵・悪魔が存在し、うごめいていると主は言われます。主は悪魔に負けたり、許容されたのでしょうか。

②すぐに解決しないのか

しもべはすぐに対処・解決しようとしますが、主人はそれを止め、当面そのままにと言われます。早計に両者を分離しようとするあまり、ミスも起こり得ます。主人はそれを惜しんでいます。主人は最終段階で確実に両者を分けて、適切に処置するつもりです。

③そのときまで待て

天の御国は現れていますが、完成してはいません。敵なる悪魔はそれを壊そうと邪魔をします。その現れに私たちも気づき、分離・解決を願いますが、焦ってはなりません。主はたとえ 1 粒でも惜しまれるあわれみに富む方です。「主の忍耐は救いです」(Ⅱペテロ 3:16)。

Ⅲ　イエスが示す「そのとき」

①敵なるサタン

悪魔・サタンについて、聖書は何と言っているでしょう。種蒔く人のたとえでは、みことばを奪い取る侵略者(19)です。誘惑者としてイエスさえも挑発し(マタイ 4:3)、聖徒を試みます(Ⅰテサ 3:5)。欺く者(Ⅱコリント 11:13-15)で、偽り者(創世記 3:4-5)です。

②御国の子らと悪い者の子ら

子は親の性質を受け継いでいます。悪い者の子らも欺く者・偽り者で、天の御国を転覆させようとうごめいています。御国の子らは、光なる神(Ⅰヨハネ 1:5)に似て光の子(エペソ 5:8)となります。「木の良し悪しはその実によって分かります」(マタイ 12:33)。

③そのとき輝きます(40-43)

イエスは終わりの時に、悪魔が蒔いたすべてのつまずき(41、注：障害となるもの)と不法を行う者を天の御国から取り集め、燃える火に投げ込まれます。そのときを待ち望む正しい人たちは、公正公義を行われる父なる神の御国で太陽のように輝くのです。

＜おわりに＞ この説明は「耳のある者は聞きなさい」(43)で締め括られています。聞いた、わかった、で終わらせていいのでしょうか。私たちの聞き方が問われています。似て異なるものがはびこり、紛らわしい時代に生きる私たちに、このたとえは何を語りかけているでしょう。(H.M.)